

fam.s

ファミスタ通信 No.47
friends of art museum, saitama



「MOMASのとびら」って なあに???



MOMASうさぎ

「MOMASのとびら」は、みんなで作品をみて！感じて！想像して！そして、からだも動かしながら、アートの面白さや楽しみ方を広げていこう！という、アートを体感できるワークショップです。親子向けや小・中学生向けのプログラムの他に、大人も参加できる『工房』というプログラムもあるとか。『工房』はどんなワークショップなのか…。こっそり見学しながら、「MOMASのとびら」を企画・運営をしている3名のスタッフのみなさんに取材してみました。



みやうかさんの帽子は
和紙製！

講師は、SMF (Saitama Muse Forum) に所属の現代アーティスト、みやうかさんです。みやうかさんは、和紙を使った立体造形や舞台美術など、触って楽しめる作品を制作しています。実は「MOMASのとびら」のプログラムは、何をつくるのか、何を見るのか、誰が来てくれるのか…など、事前に詳しい情報のお知らせをしていません。

「使う材料や素材などがわかってしまうと、作品に取り組む前から考えてしまいます。材料を見たその瞬間のワクワクを大切にしたいので、制作の直前までは見えないように布で覆って隠しています。」

(佐藤さん)

「和紙ってどんな紙？何からできていると思う？」という問いかけからスタート。みやうかさんとの和やかな空気が流れはじめました。プラスチックの円柱と角柱の型に、それぞれ和紙を貼り重ねてオリジナルのランプを制作します。制作時間は40分ほど。プログラムの進行では、時間配分も悩みどころだそうです。

「サクサクと制作をすすめていく人もいますが、ストーリーを考えたり、季節感を取り入れたり、色やかたちにフォーカスしたりと、さまざまなことを考えながら取り組む参加者もいます。そこで活躍してくれるのが、ボランティアスタッフや大学生なんです。手を出しすぎないように絶妙なサポートをしています。

いざ制作となると、大人の方が考え込んでしまうこともあります。」(飯田さん)

出来たての作品がテーブルの上に集まり始めました。皆の前で次々に自分の作品の説明をしていきます。子どもたちからは、間髪入れず感想が飛び出します。そのコメントがまた面白い！

「今回の『工房』プログラムは、アーティストのみやうかさんやスタッフとのふれあいを通して、和紙の面白さや魅力を知ってもらえたら…と企画しました。作品の評価を気にせず、その時に自分の感じたことを大事にして、大人も子どもも楽しんで制作してほしいと思っています。」(矢嶋さん)

制作では何を表現しようかなと自分で考える。作品の紹介ではどんなふうに話そうかなと文章を組み立てる。同じ時間を過ごしたみなさんの前で、小さな勇気の積み重ねを体感できるのがこのワークショップです。



2つのオリジナルランプをつくりました

さあ！あなたも「MOMASのとびら」を開いてみませんか！(A.T.)



「MOMASのとびら」は、
埼玉県立近代美術館が実施している
ワークショップです



みやうかさんの
インスタグラム
@rakugakista



心に残る作品

主任専門員兼学芸員 大越久子

2012年夏、開館30周年を記念して収蔵品の人気投票が行われました。3000点余から選ばれた約120作品の写真パネルを1階ギャラリーに掲示し、来館者が好きな作品にシールを貼っていくのです。ある時、「龍虎」の前に小学校高学年と思しき男子が3人、頭を寄せあっていました。どうやらこの作品に投票した様子です。ちょっと意外な組み合わせに思えたのでつい理由を聞いてみると、口をそろえて「アニメみたいでカッコいいから！」。

縦長の画面には、おおらかな線で悠悠たる龍と虎が描かれています。頭部以外の身体のパーツは巧妙にトリミングされてちら見えするのみ。たしかに、何も無い空間に異物がめつと現れ出でた瞬間をとらえたかのような臨場感があります。ギャラリートークなどでは、画面の外側にある(はずの)体躯を想像してみましようと投げかけながら、見る人の想像をかきたてる日

本画特有の表現を解説したりします。状況説明より部分アップを優先するこのような構図は、浮世絵を通して印象派にも影響を与えましたが、漫画やアニメーションでは時間や空間をあらゆる手段としてあたりまえに使われています。また、金泥を用いた装飾的な画風は、そもそもこの世を写したものとは思えません。異界に生きている霊獣たちはキャラクターの源泉にもなっています。紫紅の表現と現代の視覚文化とを直観的に共有した彼らの感覚に、こういう風楽しく物事を見ていきたいなあと思ったものです。

ところで彼らは、この作品を展示室で見た場合にも同じように反応したでしょうか？

投票の際に目にしていたのはカラーコピーによるA4程度の複製ですから、大きさも質感も全く別ものです。実物の長さは約125cmあるので面積は8分の1以下。もちろん絹に載った顔

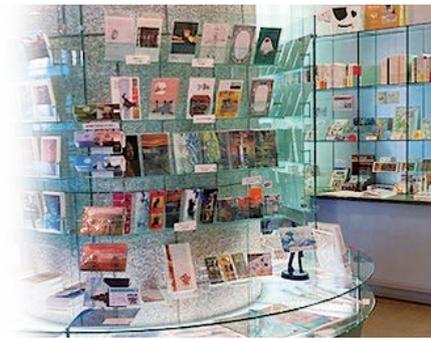
ミュージアム・ショップ

を訪ねてみました



1988年10月1日に埼玉県立近代美術館友の会（ファムス）が発足しました。そして、開館15周年の1997年8月6日に念願のミュージアム・ショップをオープン。今年美術館は40周年を迎え、ミュージアム・ショップは25年目を迎えます。

ショップを立ち上げた当時のショップ担当・前山学芸員は、かつて池袋西武の12階にあった西武美術館の、「アール・ヴィヴァン」という美術専門書を取り揃えたショップの影響もあり、当館にも魅力的なショップを作りたい、という気持ちを開館時から持ち続けていました。海外の美術館のショップの基本がブックショップであるように、教育普及の一環として、専門書を扱うミュージアム・ショップを立ち上げようと考えたようです。その後、2017年に大浦学芸員がショップ担当を引き継ぎました。



ミュージアム・ショップを担当していた大浦学芸員とスタッフの曾根さんにお話を伺いました。

●ミュージアム・ショップの方向性、またはコンセプトとしていることはありますか。

本というメディアを重視したブックショップとしての機能と、セレクトショップの機能を持ち合わせた店舗形態を目指しています。現在、気軽にネット等で本を購入したり、電子書籍で読むこともできます。ただ、実際にモノとしての本を見て、手に取って選べることは大切です。ミュージアム・ショップに専門書をはじめとし、実際に本が置いてあることはとても重要なことと考えています。また、展覧会の図録や展覧会関連の本を紹介することで、展覧会の内容を掘り下げたり、広げたりできるように心がけています。

●ショップの商品についてお伺いします。ラインナップする際に気を付けている点などはありますか。

展覧会の内容に合わせて関連した書籍などを紹介していますが、本以外ですと、モノとしてストーリー性があるもの。作り手のこだわりが見えるものなどを置きたいと思っています。また、日々、店頭でお客さんと接しているショップ・スタッフはバイヤーでもありますので、お客様の声を聞きながら、それぞれの店頭スタッフが工夫して仕入れています。

●これから、力を入れて行きたいグッズなどありますか。

オリジナルグッズですね。開店当初は鉛筆、Tシャツ、スケッチブックなどがあったようです。現在はトートバッグだけになってしまいましたが、当館のミュージアム・ショップ・オリジナルグッズをシリーズで展開したいと思っています。長く愛してもらえるグッズを厳選して作りたいですね。



トートバッグ

●ご来店の方のニーズはどのような方が多いですか。また、今後の展望などお聞かせください。

美術館に来る方は、観覧を目的に来るお客様だけでなく、無料スペースでゆっくりと時間を過ごす方、レストランでコーヒーだけ飲みに来る方、いろいろな目的でいらっしゃいます。美術館ではどのように過ごしても、「美術館に来た」という経験はできるわけです。その大切な場所としてショップはあるのかと思います。ショップとしての専門性と美術館体験を豊かにする、ということを両立していきたいですね。

●取り扱ってみたい商品などありましたら教えてください。

以前、企画展やアーティスト・プロジェクトで展示中のアーティストのドローイングや小品を販売させていただいたことがありますが、県内で活動されているアーティストと何か面白いことができたらいいいですね。私家版の作品集をショップに置かせていただくとか、小さなことからでも色々と考えていきたいです。

今後も来館者の心のオアシスとなる「ミュージアム・ショップ」から目が離せません!! (N.K.)



「サクラモヒラ」
刺繍ポーチ・コットン布巾



「花咲く!ピクルス」



「ミニチュア椅子」



料の粒子が放つ微細な耀きが伝わるはずもなく、表具だって存在しません。この紙面の図版と同様に、画面だけを切り取ったものを見ているからです。また、作品保存のために照度を下げた落ち着いたある展示室と違い、場の雰囲気も気軽に開放的です。それだけに、日本画の特質である平面性が良くも悪くも増幅され、日常生活で見慣れているモニターや印刷の画像と紫紅とが等質に結びついたのではないのでしょうか。私にとっては、媒体によって作品の見方が変わることを実感した出来事でした。

同時期に他館でも収蔵品の人気投票が行われていましたが、当館ではウェブ投票はせず、来館していただくことにこだわりました。新型コロナウイルスから身を守る新しい生活の中で、インターネットで美術館を楽しむ機会が格段に増えた今日この頃ですが、他の作品の得票状況を横目で見ながらシールを握りしめて歩き回ったことは、今思い出しても楽しい経験でした。

今村紫紅《龍虎》(1913年)





思い出の作品展

2022年7月5日(火)～7月10日(日)
一般展示室 4

気楽に始めた油彩ですが、その奥深さに悩まされ、いつしか30余年の月日が過ぎてしまいました。今年喜寿を迎え回顧展を開催致します。つたない作品ですが御覧頂ければ幸いです。



もの想う時

埼玉独立展
～第20回記念展～

2022年7月12日(火)～7月17日(日)
一般展示室 1,2,3

独立美術協会の埼玉支部の展覧会。埼玉を中心に他都県の参加者と埼玉の独立会員の賛助出品を合わせた60点以上の大作を展示します。今年は記念展ということで、見応えのある大きな作品も多く展示します。

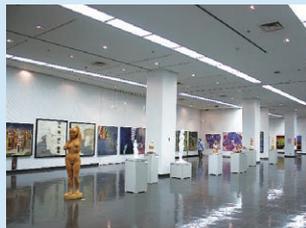


前回の会場風景

第48回埼玉二紀展

2022年7月19日(火)～7月24日(日)
一般展示室 1,2,3,4

二紀会埼玉県支部所属作家展。昨年10月の第74回二紀展の受賞・推挙作家の特別展示のほか、大作を中心に約100点の作品を展示。

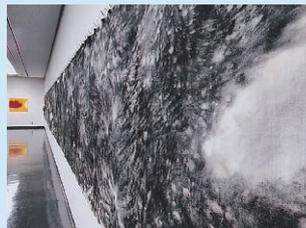


昨年の会場風景

ヨシズミ トシオ個展
創作50周年記念 part-Ⅱ
ありあるクリエイションズ藝術企画

2022年8月30日(火)～9月11日(日)
一般展示室 4

新・近作の油彩画、水墨画、銅版画、表現の可能性の展示。海外で開催されました国際版画トリエンナーレの受賞作品も併せて発表いたします。



前回の会場風景

第36回溪水会展

2022年10月4日(火)～10月9日(日)
一般展示室 4

いろんな分野の人達が集まった展覧会です。油彩画、水彩画、水墨画、墨彩画、パステル画、鉛筆画、版画、工芸品等、バラエティーに富んだ展覧会ですので、御来場の皆様には楽しんでいただけると幸いです。



前回の会場風景

ここが見どころ!

表紙解説: 佐藤時啓の人と作品 Spot Light

佐藤 時啓 (さととうきひろ)

1957年(昭和32)山形県酒田市ー1983年東京藝術大学大学院美術研究科修了。光、空気、時間など眼に見えないものを形にする立体作品を経て、ペンライトの人工光や手鏡に反射させた太陽光を写し込む写真へ移行。プリントのほか透過光フィルムやカメラ・オブスクラなどの手法を展開させ、場所の歴史と作者との関わりを問う作品を制作している。

表紙作品

《Photo-Respiration シリーズより
“#366 Saitamakinbi”》

1999年 寄託作品
セラチン・シルバー・プリント、トランスペアレンシー

代表的シリーズ「Photo-Respiration」は、ある風景の中で、ペンライトや鏡を持って歩き回る作者自身を長時間露光によって撮影するものである。描かれる光の軌道と、長い露光の結果写し出されることのない作者の不在によって、幻想的な景色が作り出される。当館の1999年の企画展「呼吸する風景」への参加に伴い、美術館内各所で「Photo-Respiration」シリーズを制作した。

賛助会員名簿／私たちは美術館を応援しています (2022年3月1日現在)

特別賛助会員

- (株)アライ設計
- (株)ガロ
- 税理士法人さかえ会計
- (株)テレビ埼玉
- 日本畜産興業(株)
- 丸沼芸術の森
- (株)武蔵野銀行
- 浦和興産(株)
- (有)埼玉画廊
- (株)榊住建
- DAY HAPPY
- (有)細井技研
- (株)万世
- (株)明成 ペペロネ

- (株)エフエムナックファイブ
- (株)埼玉りそな銀行
- 全和会 秩父中央病院
- (有)二木屋
- 松田産業(株)
- 武蔵野環境整備(株)
- メガソーラー機構

法人賛助会員

- (有)ギャラリー藤井
- (株)コア
- 埼玉二科会
- (一社)新構造社 埼玉支部
- (有)中村元
- 武蔵野美術大学卒業生会 東京埼玉支部
- 群炎美術協会 埼玉支部
- 工芸新樹会
- 埼玉二紀会
- 全日本書道芸術院
- ポロニアグループ
- 凜の会
- 溪水会
- 埼玉独立
- CAF.N協会
- (有)とらや
- 見沼100年構想の会

個人賛助会員

- 一瀬 謙輔
- 小松 弥生
- 野口 真理
- 岡田 謙司
- 小森 光子
- 廣澤 公太郎
- 岡部 照夫
- 清水 武司
- 丸山 晃
- 岡部 美代子
- 高橋 碩子
- 横尾 嘉子
- 加藤 正宏
- 滝沢 布沙

ファミス (fam.s) とは

About fam.s

ファミス (fam.s) とは、埼玉県立近代美術館友の会フレンドの愛称です。美術館を支援し、芸術文化の振興、心豊かな社会づくりに貢献することを目的に活動しています。

会員には様々な特典があり、入会は随時受け付けております。

詳しい内容については、美術館HP (<https://pref.spec.ed.jp/momas/>) もしくはフレンド事務局 (TEL048-824-0111) までお問い合わせください。



編集後記

前号掲載しました「中銀カプセルタワービル」は、4月半ばより解体が始まりました。取りはずされた「カプセル」のいくつかは、メンテナンスをされたのち、美術館などで再利用されるそうです。「カプセル」たちは、新たな場所へ旅立っていきます。また会えますように。(A.T.)

